



新津 嗣郎 (にいつ つぐお) 教授

1944年（昭和19年）生まれ

学 歴

- 1967年 3月 京都大学文学部ドイツ語学ドイツ文学科卒業
1969年 3月 京都大学大学院文学研究科ドイツ語学ドイツ文学専攻修士課程修了（文学修士）

職 歴

- 1969年 4月 愛知大学教養部専任講師（ドイツ語担当）（1995年 3月まで）
1971年 4月 名古屋大学教養部講師（兼任）（ドイツ語担当）（1982年 3月まで）
1980年 4月 名城大学法学部講師（兼任）（ドイツ語担当）（1982年 3月まで）
1982年 4月 ミュンヘン大学文学部客員研究員として留学（1984年 3月まで）
1988年 8月 文部省教員組織審査 愛知大学教養部講師（専任）（ドイツ語担当）
1992年 4月 名古屋大学教養部講師（兼任）（ドイツ語担当）（1993年 3月まで）
1995年 4月 愛知大学教養部助教授（ドイツ語担当）（1998年 3月まで）
1997年 8月 文部省教員組織審査 愛知大学国際コミュニケーション学部比較文化学科助教授
（「ヨーロッパの文学」「ヨーロッパの文化」等）
1998年 4月 愛知大学国際コミュニケーション学部助教授（2002年 3月まで）
2002年 4月 愛知大学国際コミュニケーション学部教授（現在に至る）

教育研究業績主な業績

著書、学術論文等の名称

《著書》

『「もうひとりのわたし」—ギュンター・アイヒ放送劇集一』 共著 1997年4月 松籟社

『「流れ—運命と時について—ギュンター・アイヒ放送劇集II—』 共著 2000年3月 松籟社

《学術論文》

『リルケ論の為のノート』 単緒 1975年3月 『文学論叢』第53輯 愛知大学文学会

『リルケの初期の作品をめぐって—自然観を中心に—』 単緒 1986年11月 『文学論叢』第82・83輯 愛知大学文学会

『ギュンター・アイヒ初期の詩 „Abgelegene Gehöfte“ について』 単緒 1995年1月 『一般教育論集』第8号 愛知大学教養部

『言葉と現実—ギュンター・アイヒをめぐって—』 単緒 1998年3月 『懐疑への誘い』所収 北樹出版

《講演・学会発表》

『ドイツで考えたこと』 1986年12月 愛知大学文学会

『「言葉と現実」ギュンター・アイヒについて』 1994年12月 コロキウム・スケプシス

《その他》(翻訳)

『ギュンター・アイヒ作「最後の日」』 共著 1998年7月 『外語研紀要』第26号 愛知大学外国語研究室

『ギュンター・アイヒ作「錫声」』 共著 1999年3月 『外語研紀要』第27号 愛知大学外国語研究室

『ギュンター・アイヒ作「笑う少女」』 共著 1999年9月 『言語と文化』第1号 愛知大学語学教育研究室

『ギュンター・アイヒ作「フキタンポポの時」』 共著 2000年2月 『言語と文化』第2号 愛知大学語学教育研究室

『ギュンター・アイヒ作「セトゥルパ湾の波音」』 共著 2000年7月 『言語と文化』第3号 愛知大学語学教育研究室

『ギュンター・アイヒ作「アラールは百の名を持つ」』 共著 2000年12月 『言語と文化』第4号 愛知大学語学教育研究室

『ギュンター・アイヒ作「二人のオマール」』 共著 2001年7月 『言語と文化』第5号 愛知大学語学教育研究室

『ギュンター・アイヒ作「フィリドールの防衛手」』 共著 2002年2月 『言語と文化』第6号 愛知大学語学教育研究室